

生涯学習情報誌

Life Learning

7 2015
Jul.
NO.299



「教育・じぶん学びローン」は、銀行が社会に示せるひとつの答え

東京スター銀行では、社会人の資格取得、学び直し、留学などを資金面からサポートする「教育・じぶん学びローン」を提供している。使える範囲が広いことや元本据置期間を設定できることが特長だ。入学金や授業料は当然のこと、留学などの渡航費、家賃、送り費用なども含まれ、年収150万円以上の安定的収入が1年以上あれば、派遣社員や契約社員、自営業者でもOK。修学予定期間内は最長4年間元本据え置きで利子のみの支払いでかまわない。大人も折々に学び直すことが必須の時代においては、うれしいローンである。

■ユニークといわれる銀行の哲学とサービス

「ファイナンシャル・フリーダム」お客さまをお金の心配から解放する。東京スター銀行の経営理念である。一人ひとりのお客さまとの信頼関係を大切に、先進的でユニークな金融サービスを提案、新たな価値を創出して持続的成長を目指す。パンフレットを飾る言葉として終わることなく、カタチとして現れたひとつが「教育・じぶん学びローン」だ。ほかに、手数料が実質無料のATM、預金と同額までは金利がかからない預金連動型ローン、セカンドライフの充実や安心をもたらすバースモーゲージなど、ユニークなサービスが話題となっている。

■行員のボランティアは社会貢献と人材育成

東京スター銀行は、CSR（企業の社会的責任）の一環として、社員やその家族が社会貢献や災害ボランティアに取り組むことを推奨しており、東

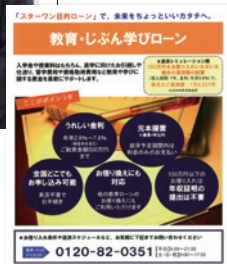
●株式会社東京スター銀行
〒107-8480
東京都港区赤坂2-3-5
Tel: 03-3586-3111 (代表)
<http://www.tokyostarbank.co.jp>
2014年LL会員登録



お話をうかがったCSR推進担当の石田聡子さん(左)と、ローン営業担当の吉岡雅之さん。お二人も南三陸町でのボランティアに参加した。



災害ボランティア中の行員（左）と、お金のいろいろを楽しむ学ぶ小学生たち（右）



「教育・じぶん学びローン」のパンフレット。

ファイナンシャル・ラウンジと呼ばれる店舗。お金についてしっかり考えるお客さまが多い。



日本大震災直後からの瓦礫撤去や復興作業に継続的に参加している。昨年8月の広島土砂災害の際も、広島支店のスタッフが災害復旧作業に参加した。ボランティアは社会貢献であると同時に、参加した人間を育む。お客さまの立場になって考えるという行員教育にもなり、行員の約6割がボランティア参加経験を持つ。

行員がボランティアに費やした時間をポイントとして蓄積し、相当額の寄付をする「ボランティアマイレージプログラム」制度もある。2014年度は、福島県いわき市でオーガニックコットンを栽培するプロジェクトなどに寄贈された。

■子ども向け金融教育にも積極的

東京スター銀行では店舗のことを「ファイナンシャル・ラウンジ」と呼び、お客さまとお金のこととをよく考える場として活用している。そのひとつが、小学校3〜6年生向けに開催した「外国のおかねにくわしくなろう!」。為替取り引きを題材に買い物をするクイズや、日本の古銭にふれる体験など、遊びながらお金のことを学ぶイベントだ。東京都港区にある本店で、放課後NPOアフタースクールと組んで開催した。

支店での社会科見学や高校への出前授業も積極的に行っていく。「キッズデイ」として行員の家族が参加するイベントもある。こうした取り組みは、お金をかしく使う習慣を身につけてもらいつつ、社会における金融の重要性や役割を理解し、将来を担う人材育成も目的としている。

漆の力を借りて命の中にある感動や学びを紡ぎ出す



漆芸 吉野貴将

Yoshino Takamasa

1976年 東京都生まれ
 2008年 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻
 工芸研究領域漆芸分野修了 学位博士号(美術)取得
 2008～2011年 東京藝術大学美術学部工芸科工芸基礎研究室
 教育研究助手
 現在 日本文化財漆協会理事、(社)現代工芸美術家協会会友
 〈受賞歴〉
 2002年 原田賞(東京藝術大学奨学金)
 2003年 杜賞(東京藝術大学美術学部杜の会)
 2005年 日本漆工奨学賞(社)日本漆工協会
 2008年 野村美術賞(財)野村国際文化財団
 2011年 現代工芸新人賞(第50回記念現代工芸美術展)
 ホームページ: <http://takamasayoshino.jimdo.com>

英語の辞書で「Japan」を引くと「漆・漆器」とある。漆芸は、そのくらい日本を代表する伝統工芸といえる。その高い技術を受け継ぎつつ、器ではなく「偶像」制作を通してメッセージを発する若手漆芸家を訪ねた。

——人形を作り始めたきっかけは。

ある人形作家の作品に出会ったことです。昭和初期の貧しい子供たちの心象風景を人形として作品にしており、デパートで開催された展示会で見た時、その人形には人を魅了する何かがありました。私もこうした作品を生み出したいと、その時、強く思ったのを覚えています。見よう見まねで人形を作るうちに、幼少期にあったいじめの経験や、人の顔を窺い気を遣っていた頃に養われた感性と、人形を作るという表現行為が結びつき、作ることで気分が晴れて楽しくなることに気付いたのです。私の人形作りの原点は、ここにある気がしています。

——現在の作品に込めたメッセージは何ですか。

東京藝術大学で学んでいる時期に、約1か月かけて中国からチベットを旅しました。ある日の昼食後、食堂の裏庭で鶏やうさぎが入れられた小さな檻に目が止まりました。食用となる運命にありながら、懸命に餌をついばむ鶏たちの眼は、ひたすらに生きようとする命の輝きで満ち溢れているように見えました。私たち人間の命は、彼らの犠牲の上に成り立っていますが、はたしてどれだけの人間がその事実を認識し、感謝をして食事をしているのでしょうか。眼の前の鶏と私も、同じ命で繋がっている」と認識した瞬間、懸命に生きる鶏たちの姿に畏敬の念を抱かずにはいられませんでした。

この命を慈しむ気持ちの大切さを気付かせてくれた、

鶏たちへの感謝の気持ちを作品として表現したいと思
い、その思いを形にした作品が『成〜(カイローン)』
です。ここから私の人形作りⅡ偶像表現が本格的にスタ
ートしました。あらゆる命の中には多くの感動や学びが
あります。私はそれらの一つひとつを、漆芸の技術を通
して紡ぎ出していきたいと感じたのです。

私が自らの人形作品を「偶像」と呼ぶのは、その言葉
の持つ、憧れや崇拜の対象、という意味が、日常の中
にある命の存在に気付き、心を傾けてくれるよう訴えかけ
る人形の役割とマッチしていると感じるからです。人、
動物、植物、あらゆる命を観察するうちに、私の心に湧
き出る感動や心象を偶像として表現したくなります。

——なぜ漆を選ばれたのか、そしてその特質や技術を
作品制作にどのように活かしているのですか。

東京藝大で漆を学んだ時、漆という天然素材に人間の
手業を積み重ねていくことで、見たこともないツヤや神
秘的な表現ができることに感動しました。同時に、漆の
魅力を自分の偶像表現に生かせば、他の素材では絶対に
真似できない、新しい偶像の姿を創造できると確信した
のです。また、漆は木の樹皮に大きなキズを何本もつけ、
一滴一滴とじみ出る樹液をすくい取って採取されま
す。自然が育んだ命そのものである漆は、一滴として無
駄にできない尊いものです。その点でも、私の作品テー
マを形作る素材として最適だと思っています。

技術的には、脱活乾漆という、漆で中が空洞の像を作
る伝統技術を応用しています。古くは奈良興福寺の阿修
羅像に代表される仏像制作に使われた技法で、軽くて丈
夫なのが利点です（木材のように割れなどの経年変化が
無い）。粘土で原型を制作した後には石膏で型取りをし
ます。その後、石膏雌型の内側に様々な漆下地の行程を積
み重ね、さらに糊漆で麻布を貼り付け、布地を漆下地で
埋め、表面を均一に研いでいきます。この行程を何度も



石膏雌型から像を取り出す作業



繊細さを要求される蒔絵の作業



ダルマ (2009年)



〜成〜 (カイローン)
(2003年)



聞き手: 上野由美子 (左)

古代オリエントガラス研究家。
UCL (ユニヴァーシティ・カレッジ・
ロンドン) 考古学研究所在籍中。
2012年国際日本伝統工芸振興会
の評議員。ARTP副団長として
王家の谷発掘プロジェクトに参加
(1999年〜2002年)。聖心女子大
学卒業論文『ペルシアガラスに
おける円形切り装飾に関する考
察』、修士論文『紀元前2000年
紀に於けるコア・ガラス容器製
作の線紋装飾に関する考察』ほか、
執筆・著書多数。

海外に認められた素晴らしい文化でありながら、国内
での認知度は低いと感じます。漆の魅力と価値、その表
現の可能性を多くの人に知っていただき、漆の文化継承
に貢献したいと思っています。活動の一環として、海外
での作品発表や日本橋三越本店での個展、また能舞台に
おける、漆を使った能面制作なども予定しています。

——現在、日本における漆の置かれている立場について
どう思われますか。

海外に認められた素晴らしい文化でありながら、国内
での認知度は低いと感じます。漆の魅力と価値、その表
現の可能性を多くの人に知っていただき、漆の文化継承
に貢献したいと思っています。活動の一環として、海外
での作品発表や日本橋三越本店での個展、また能舞台に
おける、漆を使った能面制作なども予定しています。

繰り返し、像の厚みを増し強度を持たせます。2〜4mm
の厚みがでたところで石膏雌型から取り外し、パーツを
貼り合わせて空洞の像を成形。その後、像の表面に漆下
地、研ぎ、漆塗り（下塗り、研ぎ、中塗り、研ぎ、上塗り
と何度も塗り重ねる）を繰り返して完成となります。

◆豆腐と豚肉入りの ゴーヤーチャンプルー

〈材料／4人分〉

ゴーヤー	1本
木綿豆腐	1丁
豚肉（切り落とし）	100g
ニンジン	1/4本
モヤシ	80g
タマネギ	1/2個
桜エビ	大2
卵	1個
ゴマ油	大1
みりん	大1/2
しょう油	大1
塩・コショウ	各少々

〈作り方〉

- ①ゴーヤーは縦2つに切り、中のワタと種をスプーンでそぎ取り、約3mmの幅に切っておく。豆腐はしっかりと水切りする。
- ②ニンジンは3～4cm長の短冊切り、モヤシはひげ根と芽を取り、玉ねぎは一口大の乱切りにする。
- ③フライパンにごま油大1/2を熱して、その上に木綿豆腐をちぎって入れ、切り落としの豚肉と一緒に強火で約2～3分炒めて、取り出す。
- ④③のフライパンに同量のごま油を足して、タマネギ、ニンジン、モヤシ、ゴーヤーを炒め、フタをして中火で約3分煮る。
- ⑤取り出した③を戻し入れ、みりん大1/2、しょう油大1、塩・コショウ少々を加えて、ざっとひと混ぜする。
- ⑥桜エビと溶き卵を全体にかけ、火を消して軽く蒸したら完成。

提供：FLAネットワーク協会

一般社団法人FLAネットワーク協会では、食生活アドバイザー®検定を通して、正しい食事を生活とともに提案し、適切な助言や指導ができる食生活の専門家を育成しています。また、様々な面で優れている和食の見直しと普及にも力を注いでいます。お問い合わせは▶TEL 0120-86-3593

ゴーヤー



沖縄の長寿を支えてきた野菜の代表「ゴーヤー」。
食材としてだけでなく、グリーンカーテンとしても愛され、苗が全国的に売られています。
中国で「涼瓜」とも呼ばれているように、
体内の熱を取り去るため、暑い夏や暑い地域にぴったりの野菜と言えます。
ゴーヤーのビタミンCはピーマンと同じくらい豊富で、キュウリやトマトの5倍ほどもあり、
疲労や夏バテの回復にとっても有効です。
しかも、ゴーヤーのビタミンCは加熱しても壊れにくいのが特長です。
独特の苦み成分は、健胃や食欲増進効果のほか、
血中コレステロール値や血糖値を下げる効果があると言われています。
苦みが苦手な人は調理の際に、水に晒す、塩もみする、
さつと湯通しするなどしてから使用すると、苦味が緩和されて良いでしょう。
豆腐・卵・豚肉と一緒に炒めた「ゴーヤーチャンプルー」は、
食欲が減退しがちな夏にもうってつけのおかず。
疲労回復効果のあるビタミンB1が豊富な豚肉とゴーヤーの組み合わせは、
夏バテや夏カゼ予防に最適です。